

# 北海道ビルダーズ協会の活動について

一般社団法人北海道ビルダーズ協会 事務局長 大柳佳紀



北海道の工務店団体である一般社団法人北海道ビルダーズ協会（以下、「ビルダーズ協会」）について、その設立から現在に至る活動の一端を紹介させていただきます。

## 1. 設立について

ビルダーズ協会は、平成27年6月に北方型住宅ECO推進協議会（以下、「ECO協」）を法人化・名称変更し、道内最大の工務店団体として設立されました。

前身であるECO協は平成21年3月に設立されています。ECO協では、道が平成17年から推進した「北方型住宅」の断熱・気密性能を引き上げた「北方型住宅ECO」を国の「長期優良住宅先導モデル事業」に提案し、採択を受けました。「北方型住宅ECO」に取り組むことで、ECO協会員企業は全国トップレベルの省エネルギー技術を身につけ、住宅の断熱・気密性能を国内最高水準にまで高めてきました。さらに、道産木材や地場資源の活用を図るなど、地球環境にも優しい高性能住宅の建設に取り組んできました。

現在のビルダーズ協会は北海道における住宅建設、住宅供給、住宅設計を行う事業者、並びにその関連事業者で構成されています（表）。住宅の建設、改修、維持管理を行う道民の皆様には技術、品質、情報等を提供し、北海道において良好な住環境の形成に貢献する事業を行っています。

表 ビルダーズ協会の組織概要

代表理事	武部 豊樹（武部建設株式会社）	
会員企業	施工事業者	152 社
	設計事業者	17 社
	木材・製材関連事業者	84 社
	その他	5 社



北海道色を使ってデザインしたビルダーズ協会のロゴマーク

北海道本体：

アスパラ緑色

屋根：

ジンギスカン赤色

家：

トウキビ黄色

## 2. 主な事業活動

ビルダーズ協会では次のような住宅建設にかかわる広範な事業を推進しています。

- 1) 住宅建設に係る業務・技術支援、並びに技術者・技能者育成に関する事業
- 2) 道内工務店の業務に関する情報等の提供、研修・講習に関する事業
- 3) 住宅及びその施工の技術力向上に関する事業
- 4) 住宅履歴の管理及び活用に関する事業
- 5) 国が推進する住宅政策、北海道が推進する北方型住宅等の住宅施策に適合する住宅建設及び省エネルギー化等を促進する活動
- 6) 道内自治体の住宅施策を支援する活動
- 7) 道内自治体の定住、道外からの移住等の施策の推進を支援する活動
- 8) 道内自治体の防災及び災害等の復旧、復興等を支援する活動
- 9) 道内地域材の活用と普及に関する活動
- 10) 国内他地域の住宅建設に係る目的を有する団体との交流に関する活動
- 11) 海外の住宅建設に係る技術支援と技術取得に関する活動
- 12) その他、当法人の目的を達成するために必要な事業

今年で法人化から4年が経過してこれらの活動は定着し、さらに国をはじめとする他機関からの業務の受

託や連携も進んでいます。

国からの委託事業では、「地域型住宅グリーン化事業」の北海道グループネットワーク事務局と、「住宅省エネルギー技術講習会」の北海道事務局を担当しています。また、一般社団法人全国木造建設事業協会（以下、全木協）と連携した災害時の木造応急仮設住宅の建設事業、一般社団法人JBN全国工務店協会（以下、JBN）と連携した大工育成事業についても重要な役割を務めています。さらに、ビルダーズ協会の独自事業として「新人大工育成」事業を進めています。

これらについて、順に紹介していきます。

### 3. 国からの委託事業への取組

#### (1) 地域型住宅グリーン化事業

地域型住宅グリーン化事業とは、地域の中小工務店が建てる高性能住宅に対する補助事業で、100～200万円が補助されます。ビルダーズ協会会員グループの採択数は4年間で600戸を超え、この間の補助金の総額は全国に900余りある工務店グループの中でもトップクラスと言われています。提案内容は年ごとに高度化し、北海道の住宅性能の向上に大きく貢献しています。

#### (2) 住宅省エネルギー技術講習会

住宅省エネルギー技術講習会とは、地域の木造住宅生産を担う大工や断熱施工技術者・設計者を対象とする事業で、平成24年から開催されています。全国47都道府県にそれぞれ一事務局が置かれ、ビルダーズ協会は北海道事務局として7年間継続して運営にあたっています。全国の平均的な技術レベルに合わせた講習会は、技術レベルが高い北海道の工務店向けの内容とは言えませんが、復習の意味を込めて技術者が受講しています。

この講習会の一環として、（一財）北海道建築指導センターと連携して、年間3都市程度で実際に建てられた住宅を素材とした現地セミナーを開催し、高性能住宅、ゼロ・エネルギー住宅の建設技術の普及に努めています。

#### 4. 災害対策への取組み

北海道と全木協は災害時の木造応急仮設住宅建設に関する協定を結び、平成29年10月20日、高橋知事、青木宏之会長（いずれも、当時）が署名する調印式を行いました。これにより、ビルダーズ協会は全木協の

北海道事務局として、災害発生時には仮設住宅の建設運営することとなりました。なお、北海道は他府県に比較し広大であることから、全国で初めて道央・道北に主幹事会社2社を置いたほか、道央・道南・道北・道東の4ブロックに当協会会員の幹事会社と木材事業者を配置する体制を整えました。

協定締結後、ビルダーズ協会では道住宅課と、断熱性能に優れた木造応急仮設住宅の北海道プランを検討しています。



高橋前知事と青木前全木協会長の調印式

平成31年1月23日には、木造応急仮設住宅に関する研修会を札幌で開催しました。午前、熊本工務店ネットワーク会長の久原英司氏が熊本地震後の木造応急仮設住宅建設の取り組みの経緯、建設における課題とその克服について、次いで、全木協事務局長小野寺博人氏が応急仮設木造住宅の果たすべき役割、北海道の応急仮設木造住宅の仕様と性能について説明しました。午後は、界壁にグラスウール断熱材を充填する北海道仕様木造応急仮設住宅について、24名が4班に分かれて2時間で建てる実技研修を実施しました。参加者からは「人数が多く、作業が早く進んだ」「実際に建てて、木造応急仮設住宅のイメージが理解できた」との感想がありました。

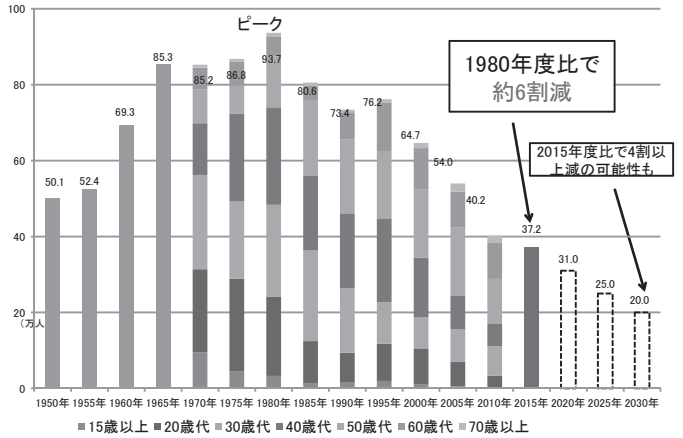
日にちは前後しますが、平成30年の北海道胆振東部地震では、ビルダーズ協会会員工務店が協力して「大工ボランティア」として被災地に入り活動しました。道からの要請を受け、被災3町での住宅相談会に相談員を派遣しました。そして、この活動に対して本年3月28日に知事感謝状を受けています。



木造応急仮設住宅の建方実技の研修



木造応急仮設住宅の実技研修の参加者



大工従事者数の推移（減少が顕著）

ビルダーズ協会は、工務店の大きな強みは腕の良い大工がいることであり、そのことが競争力につながっていると認識しています。そこで、ビルダーズ協会では大工の育成に積極的に取り組んでいます。

平成28年からJBNの大工育成プロジェクトチームの事務局として活動し、「大工育成ガイドライン」を作成しました。さらに、全国に先駆けて（独）ポリテクセンター北海道と連携して、3年間で一通りの技能を得られることを目的とした大工育成プログラムを開発し、現在、その受け入れが行われています。

初年度の30年度は10名の新人大工が研修を受講し、今年度は1年生11名、昨年から引き続き2年生が8名受講しています。



1年目のプログラムを終えた新人大工

## 5. 大工育成の取組

### (1) 大工育成プログラムの開発

現在、住宅を建設する基幹技能者である大工職人は全国的に不足しています。大工職人が最も多かった1980年代は約90万人でしたが、2015年には40万人を切り、ピーク時から60%程も減少しています。また、高齢者の割合が高く、高齢化も深刻な課題となっています。20才以下の若年職人は全国合計で2000人台、北海道では20才以下120人、20代900人（2015年国勢調査）となっています。このまま推移すると10年後には危機的状況となることが予想されています。

大工職人の減少は、ハウスメーカー、ゼネコンはもとより、地域工務店にとっても、今後需要が増加すると予想されているリフォームにも対応することができなくなるため、経営上の大きな問題となります。

### (2) 大工ネットワーク北海道の設立

大工職人の交流、情報交換の場として「大工ネットワーク北海道」を平成29年に設立し、毎年6月に総会を行っています。総会事業の一環として、鉦（かん

な) 仕上げの技能を競う全国大会「削ろう会」の北海道版「ミニ削ろう会」を開催しています。今年度は6月21日に40名以上の大工が参加して腕を競い合ったところです。



小川棟梁の槍鉋の削り (大工ネットワーク)



削ろう会の様子

### (3)若手大工研修と研修旅行

若手大工の育成には、大工ネットワーク北海道の設立総会で基調講演をして頂いた法隆寺の宮大工である鶴(いかるが)工舎・小川三夫棟梁に大きく貢献していただいています

3月1～3日、新人大工研修の講者のうちの7名とそ

の所属会社の中堅大工など16名が奈良～京都～神戸の研修旅行を実施しました。その研修で、小川棟梁から法隆寺を2時間半にわたり細部まで案内していただきました。新人大工のみならず中堅大工の皆さんにも、小川三夫棟梁の一言一言が心に残り、北海道に帰ってからの仕事に対する心構えなどについて非常に良い影響があったようでした。



法隆寺中門前での一行

## 6. 道との連携

南幌町の「みどり野きた住まいるヴィレッジ」は、建築家と地域工務店がコラボレーションして「暮らしから住まいを提案する」新しいタイプの住宅展示場で、北海道、北海道住宅供給公社、南幌町が共同で推進しています。ここに、ビルダーズ協会の理事・幹事会社がモデル住宅を5棟建設し、30年6月から公開しています。住宅展示場の新たな試みとしてマスコミにも取り上げられ、道内に留まらず道外からも多くの見学者を迎えています。

以上、ビルダーズ協会の活動の概略を紹介いたしました。今後の活動について連携、ご協力を宜しくお願い致します。



みどり野きた住まいるヴィレッジ (北海道きた住まいるHPより)